

松 阪 市

【課題】

外国人児童生徒の受入体制については、一定の成果が見られるが、学力・進路保障の面、キャリア形成の面等で課題がある。

【実施事業の概要】

- ・日本語指導、教科指導、学習評価等の実践研究を行う。
- ・児童生徒の母語が分かる支援員（母語スタッフ）を派遣する。
- ・外国人児童生徒受入のための校内体制を整備する。
- ・大学、国際交流協会等の関係機関と連携を図る。

学校、大学、国際交流協会等との連携による
外国人児童生徒の支援体制の構築

【具体的な取組】

初期適応支援教室「いっぽ」による日本語指導・学校生活への適応支援

「特別の教育課程」による個別の指導計画作成・評価の協議

JSLカリキュラム（教科指導型日本語指導）の実践・研究（公開授業1回／年、センター校教職員研修会等）

就学実態調査による、すべての外国人児童生徒の就学

母語スタッフの派遣（学校、「いっぽ」、就学実態調査、高校生活入門講座等）

多文化共生教育の実践・研究

【取組の成果】

児童生徒の初期日本語力の向上が図られる。（「いっぽ」カリキュラムを全て修了して卒業する児童生徒の割合100%）

進学を希望する日本語指導が必要な外国人生徒の進学率（未確定）

小中で作成した個票を高校へつなぎ、小中高の連携が深まる。（作成率100%）

小中学校における外国人児童生徒の就学率（100%）

多文化共生の視点に立った学習に取り組む学校の割合（100%）

【成果と今後の課題】

「いっぽ」教室の開設、「特別の教育課程」の実施、JSLカリキュラムを活かした分かりやすい授業づくり、母語スタッフの派遣、就学実態調査等を通して、外国人児童生徒の受入体制を充実させ、児童生徒とその保護者が安心して学校生活を送れる環境づくりにつなげることができた。また、センター校が中心となって支援体制の整備や実践研究を進め、その成果を分散地域の学校へ広げることで、市全体の支援力を高めることができた。

一方、中学校卒業後の進学・就職を見据えた学力保障・進路保障を実現するためには、今後も多様な立場の関係者が連携していく必要がある。「いっぽ」では、より力を付けられるよう、初期指導を一層効果的に進めることが求められるとともに、「いっぽ」修了後の児童生徒への日本語指導や教科指導について、実践研究と教職員研修を継続し、指導の質を高めていくことが重要である。